全職員を対象とした院内感染対策に関する研修の取組み

◎藏前 仁[1)]、天野 ともみ[1)]、松井 奈津子[1)]、伊藤 英史[1)]、大嶋 剛史[1)]
医療法人 豊田会 刈谷豊田総合病院[1)]

【背景】当院は感染対策向上加算 I を取得している病床数 704 床の市中急性期病院である。加算要件には感染対策チーム（ＩＣＴ）による全職員を対象とした院内感染対策に関する研修が求められている。今回、2023 年度にＩＣＴが実施した職員研修への取組みについて報告する。

【対象・方法】全職員を対象に上期と下期に研修を実施した。上期においては手指衛生遵守を目的としたウォークスルー形式による体験型の研修を 7 日間に渡り開催し、下期にはコロナ禍を振返り、今後の院内感染対策の体制を考えるシンポジウム形式の研修とした。

【結果】上期においては、ウォークスルー形式により感染対策に関するポスター、動画視聴と蛍光塗料を用いたブラックライトによる手指衛生実技チェックを実施し、参加率 100％であり、アンケートにおいても良好な感想が大半を占めた。下期では、コロナ禍を発生初期・ＥＲ受入れ期・発熱外来開始期の 3 期に分けて振返り、各部門の代表者によるシンポジウム形式の研修とした。それを基に将来のパンデミックに備える当院のＢＣＰを導き出す講演会とした。

【考察】院内には多岐にわたる職種の職員が約 2,000 人在職しており、従来、全職員を対象した際にはその方向性・参加率等に苦慮していた。今回、研修への参加率向上および院内感染対策の意識向上を目的とした研修を企画した。上期では短時間での体験型企画を複数日設け、ポスター・動画には病院長をはじめとする経営層も参画し、職員の参加および意識向上に寄与できた。下期においては職員の実体験をディスカッションし、臨場感ある内容とし今後の体制についてＩＣＴのみでなく全職員で考える内容とした。

【結語】新型コロナ感染症 5 類移行に伴い社会活動は従来の活発さを取り戻した。それに伴い各種感染症の発生動向も変化を来した。その中で、院内感染対策は病院運営上、より重要な責務を担っていくと考える。その中で、臨床検査技師としてＩＣＴに参画し、各種院内感染対策において、当院の理念である保険・医療・福祉分野での社会貢献を実践していきたい。

連絡先：hitoshi.kuramae@toyota-kai.or.jp